

教室だより

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室
平成30年3月22日
第843号

〒952-1209 佐渡市千種丙 178 番地 1
Tel : 0259 (63) 4156 (直) 4115 (代) Fax : 4117
<http://kanai-es.sado.ed.jp> E-mail : skotoba@sado.ed.jp



この1年もまた、子どもたちの成長をたくさん見ることができました。子どもの力を信じることの大切さを改めて思いました。同じように親であり、支援者である私たちも精一杯この1年を生きました。まず自分のがんばりを認めることから、新たなスタートを切りたいですね。

子どもによりそうための技術

佐渡総合病院 小児科
岡崎 実

運転免許を取りたてのころ、講釈は立派でも隣に乗った私の母は遠慮なく怖がっていました。仕事で新生児を何万回も抱っこしたら、赤ちゃんが泣き止みやすい揺らし方の加速度やリズムが自然に身につきました。技術というものは知識だけでは役に立たず、何度も何度も練習することで自分のワザになります。

自閉症の子どもたちに対する応用行動分析の技術、ADHDの子どもへのペアレントトレーニング技術も同じでした。半信半疑でやってみて役立つことに気づき、使うチャンスに恵まれたからこそ少しずつ余裕を保って動けるようになりました。

そうすると単純なもので、こんなに便利なものだからみんなが使うべきだと知識にこだわり、保護者の方々に外来で本を何冊も紹介していました。もちろん、使いこなせる方はまれです。おそらく、責められているようで親子ともどもありがた迷惑だったことでしょう。ご自身で試してみてその便利さに気づけたときに一番の意欲につながります。これからは、その一步一步を踏み出してもらえよう、コーチング技術の練習を重ねてみたいと思っています。

学習の基盤「読む力」

これまで、「国語がいやだ…」という子に何人か出会いました。その子どもたちは口をそろえて音読することが「疲れる」と言います。何がいや？何が疲れるのだろう…と思い探ると、共通して「すらすら読むことが苦手」でした。具体的には、「言葉をまとまりで捉えられず、読みがたどたどしい」「特殊音節（小さい”っ・や・ゆ・よ”など）が習得できていない」「目で文字を順に追うことができず、あちこち視点が移ってしまう」など苦手なことは子どもによりさまざまです。そのとき、「練習不足」が原因ではないのだと気付きました。そのさらに奥深くに、読むことへの抵抗感を強めている何かがあるのだと分かりました。

つまづきが分かり、苦手に対するトレーニングを積みました。すると少しずつですが、確実に力がついていきます。日に日にすらすら読める文量が増えていきます。子どもも読めるようになってきていることがうれしく、前向きにがんばっていたのです。

国語に限らず、読むことはすべての学習の基盤と言えます。読みを苦手に行っている原因を適切に捉え、読む力が身につくよう、早期に支援をしていきたいです。（竹内）



親の会コーナー



終了式および終了者懇話会を行いました

3月19日に、佐渡ことば・こころの教室終了式および終了者懇話会が金井小学校で行われました。当日は、15人の終了者と、その保護者が参加してくださいました。

終了式では、佐渡市教育委員会や、親の会から言葉をいただき、終了証をお渡ししました。懇話会では、保護者の方から、終了に当たっての感想をお話していただいたり、担当者からも思いをお話させていただいたりしました。温かい雰囲気とたくさんの笑顔にあふれた素晴らしい懇話会となりました。御参加いただいた皆様、ありがとうございました。終了者されたお子様と保護者の皆様が素晴らしい人生を歩んでいかれることを担当者一同願っております。



終了生徒の言葉(抜粋)

僕にとって、ことば・こころの教室は、遊んだり、学びあったりすることができる場所である他に、自分が辛かったことを話したり、仲間の辛かったことを聞いたりして、気持ちを共有することができる場所でした。そして心を落ち着かせてくれる場所でした。僕は、ことば・こころの教室を卒業して、4月から高校生になります。寂しくて不安な気持ちもありますが、高校生になるのが楽しみでもあります。僕をこれまで支えてくださった先生方や仲間感謝の気持ちでいっぱいです。9年間本当にありがとうございました。

「親子で得たものも大切さ」(通級終了児童の保護者)

ことば・こころの教室に通って一年というあっという間の期間でした。息子の読み書きが苦手な所、何か言うと「どうせ」「僕には」と後ろ向きな言葉が返ってくることに不安を感じていました。人それぞれ得意・不得意はありますが、先生は息子の苦手な所をかみくだいて分かりやすく指導してくれました。その日のファイルを通して、勉強したこと、先生の一言に目を向け息子が楽しく授業をやっていることを知りました。私の不安も少しずつ軽くなり、いつの間にか本人のやれば出来るという自信に繋がっていったことが感じられるようになりました。本当に貴重な時間をありがとうございました。

「9年間の思い出」(通級終了生徒の保護者)

コミュニケーションや言葉の発達に遅れがあり、病院でのSTから移行し指導を受け始めました。最初の頃は本人の課題に向き合い、ステップをひとつずつクリアしていく方法を教えていただき、親子で楽しみながら通っていたことを覚えています。しかし小学校中学年からは、周りとのトラブルに本人が悩むようになり、その相談などに多くの時間をいただきました。特に中学生になってからは教室がオアシスのようで、どれだけ癒やされ励まされたことでしょうか。グループ活動でできた仲間の存在も大きな支えになったと思います。9年間にわたり、子どもの成長を温かく見守り続けていただいたことに、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



